

## 福島県金融経済概況

### 1. 概 況

県内景気は、引き続き厳しい状況にあるが、生産面を中心に持ち直している。もっとも先行きへの不透明感が強い。

すなわち、最終需要をみると、個人消費は、各種政策効果から自動車販売や家電販売の一部で持ち直しているものの、厳しい雇用・所得情勢を背景に大型小売店の売上高がさらに減少しているなど、全体としては弱い動きとなっている。住宅投資は前年を下回る低調な状況が続いている。公共投資は前年を上回っている。設備投資は大幅な減少が引き続き見込まれている。

鉱工業生産動向をみると、水準はなお低い、内外の在庫調整の進捗や政策効果から持ち直している。

消費者物価指数は前年を下回って推移している。

こうしたもとで、12月短観でみた県内企業の業況判断D. I. は、3回調査連続で「悪い」超幅が縮小した。

### 2. 最終需要動向

個人消費は、各種政策効果から自動車販売や家電販売の一部で持ち直しているものの、厳しい雇用・所得情勢を背景に節約志向が一層強まっているため大型小売店の売上高がさらに減少しているなど、全体としては弱い動きが続いている。

- 大型小売店売上高は、消費者の節約志向が一段と強まっていることから前年比マイナス幅が拡大している。
- 新車登録台数（含む軽）は、税制改正等の効果から、小型車を中心に3か月連続で前年を上回るなど回復している。
- 家電販売は、政策効果もあって、薄型テレビを中心に堅調な販売が持続している。
- レジャー消費をみると、雇用・所得情勢の厳しさを映じた消費者マインドの冷え込みや、新型インフルエンザの影響もあって、国内外ともに旅行支出を抑える動きが続いている。

設備投資は、製造業の一部で上積みの動きがみられるが、全体としては大幅な減少が引き続き見込まれている。

住宅投資は前年を下回る低調な状況が続いている。

公共投資は2か月連続で前年を上回った。

### 3. 鉱工業生産動向

生産面をみると、水準としてはなお低いものの、内外の在庫調整の進捗や政策効果から持ち直しが続いている。業種別には、民間設備投資の弱さを背景に一般機械が低調に推移しているが、輸送機械や電気機械を中心に幅広い業種で持ち直しの動きが続いているほか、非鉄金属、化学などの素材業種でも生産水準を引き上げている。

### 4. 雇用・所得動向

雇用・所得情勢は厳しい状況が続いている。

- 有効求人倍率は0.33倍と3か月連続で過去最低水準となった。
- 大口人員整理の対象人数は、前年比小幅の増加に止まったが、歯止めがかかった状況にはない。
- 雇用保険受給者数は、前年比プラス幅が縮小しているものの、引き続き高水準にある。
- 所定外労働時間は、生産の持ち直しを映じて前年比マイナス幅が縮小している。
- 雇用者所得は12か月連続で前年を下回っている。

### 5. 金融情勢

銀行券受払高は発行超となった。

実質預金は個人預金の増加等から前年を上回って推移している。

貸出は、法人向け資金需要が引き続き低迷しているが、地公体向けが増加したことから前年比プラス幅が幾分拡大した。

貸出約定平均金利（当貸を含む総合ベース）は、地元地銀・第二地銀、信金とも前月を下回った。

企業倒産件数は比較的落ち着いた状態が続いている。

以 上